

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790200133		
法人名	株式会社 ケアネット		
事業所名	会津サービスセンター グループホームあいづ		
所在地	福島県会津若松市門田町工業団地37-1		
自己評価作成日	平成24年7月26日	評価結果市町村受理日	平成24年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が今までの生活スタイルを出来るだけ継続できるように、「自分らしい生活ができるケア」を目指して取り組んでいます  
 ご利用者様一人ひとりにより添った「十人十色の幸せ探し」ができるケアを目指し、そばで支えるケアを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 事業所がある同一敷地内に同法人経営の介護関連事業所が多く設置されており、それらの事業所と円滑な連携が図られており、施設職員同士の応援体制も整備されているため、利用者、家族はじめ職員の安心に繋がっている。  
 2 事業所は地域の行事には関連施設と合同で積極的に参加し交流している。更に、幼稚園児の訪問や中学生の職場体験等も積極的に受け入れている。  
 3 法人では職員の資格取得への支援があり、外部研修への参加や内部研修会の開催等を積極的に実施しており、職員の勤労意欲の向上につながっている。また、職員も各自目標を持って自己研鑽に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念を携帯し、一人ひとりが理念に基づいた行動をとっている。 職員全員で考え掲げたGHの理念をSTに掲示し、理念に沿って、職員一丸となって介護ができるよう日々心がけている	理念は共用空間、職員室等に掲示され、全職員が月例会等で理念の確認をしている。 職員は「利用者の心に寄り添い、安らぎのある生活」の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員や区長に相談し、地域の行事には積極的に参加し、地域の皆様に支援していただきながら地域に溶け込めるように努力している	事業所は地域に根ざした事業所を目指し事業展開をしている。地域の行事(運動会・祭り・御大般若等)には積極的に参加しており、ボランティア、幼稚園児の訪問、中学生の職場体験等も受け入れ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でGHでの取り組みやご家族の思いなどを話をする事や、地域の方が一緒に食事をとることで理解を深めて行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2か月に1度、活動内容やサービス状況を報告し、地域の方や地域包括支援センターから意見を頂いている。今後のサービス向上にむけ取り組みを行っている。家族・地域の方と一緒に看取りについての話し合い等も行った。	委員は区長はじめ各分野から選任され、定期的に開催されている。委員から地域の行事への参加や災害対策、看取りへの対応等多様な提言があり、事業所運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことがあれば、すぐに担当者へ連絡してアドバイスを頂いている。運営推進会議に地域包括支援センターの方にも出席いただき運営の協力も頂いている。大雨や地震発生時なども市役所担当者から連絡を頂き、良好な関係を築いている。	開設時から市との協力関係は緊密に図っている。地震や暴風時には市から安全確認の電話が入るなど協力関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全てが身体拘束をしないケアの理解を深め、ケアを行っている。 職員全員の共通認識により、拘束を行わないケアを行っている	関連する施設全体で八つの委員会が設置されており、「身体拘束廃止委員会」を中心に全職員がマニュアルを理解し、共通の認識のもと拘束のないケアに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全てが虐待についての理解を深め、日々のケアの中でご利用者様中心の考えから外れないように職員間でも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用しているご利用者もおり、後見人と協力しながら活用をすすめている。新たに後見人が必要となったご家族の相談にも乗り、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には、ご利用者・ご家族へ重要事項・契約書の内容を説明し、入所時にも再度説明し、捺印を頂く様にしている。入所後も分からない所などは随時説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご利用者様とご家族に出席していただき意見を頂いている。 その他、家族・ご利用者様の日常的に頂いた要望を、ケアに反映できるようにGH会議等で話し合いよりよい方向へすすめるように対応している。	面会時等を通して家族の意向把握に努めている。また、運営推進会議や年2回開催している家族会等での意見は月例会議等で検討され運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に気づいた事を随時提案し、対応するようにしている。 月1回のGH会議で問題点を話し合い改善していくようにしている 必要に応じ、センター長の面談を行っている	管理者・職員の関係は良好で、日常生活の中で課題や要望等伝えており、月例会等で話し合い運営に反映させている。案件によっては関連する全施設を統括するセンター長が各事業所間を調整し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休暇希望を取り入れた勤務表を作成している。 勤務内容の見直し等もGH会議で話し合い、改善につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修会の参加出来るようにしている。昨年度は内部研修としてSSへ研修へ行き、介護技術の習得をすすめた。今年度は認知症実践者研修への参加など積極的にを行い、スキルアップに努めて行く。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に入り、研修会に参加している。 他の事業所の取り組みなどを伺い、吸収することで自事業所のサービスの振り返りや目標確認にもつながっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にアセスメントを行い、ご利用者の要望や不安を聞き、説明を行っている。入所時にも内部の説明を含め、不安な部分を説明し、本人の思いを受け止め、より添い安心して頂けるよう繰り返し説明している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時、契約説明時、入所時にご家族の要望や不安を聞き説明を行っている。面会時や電話でも随時話を伺えるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所直後は生活環境が変わる為、要望や体調を見ながらケアに努めている。今困っていることは何なのか、何が最優先事項なのかを本人・ご家族からよく話を伺い、お互いに相談し合っ、今までの生活習慣や好みが継続できるように援助していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来ることを活かしたお手伝い等を一緒に行う中で、ご利用者様の心に寄り添い悩みも喜びも共感しながら、信頼し共に生きていく関係を築いている。職員はご利用者様に教えて頂くことも多く、その笑顔に励まされ成長させて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話等で現在のご利用者様の状況を理解していただき、ご家族としての支援をお願いすることもある。家族の絆を大切に、支えて行く関係を築けるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで利用してきた美容室や自宅、自宅周辺の商店街等に行くようにしたり、DSご利用の夫への面会など、なじみの場所やなじみの人との関わりを絶やさないようにしている。面会時等もまた来たいと思って頂けるような、安心・気兼ねのない環境を提供できるようにしている。	馴染みの理美容院等の利用は家族同伴を基本に出かけている。敷地内のデイサービスやショートステイ利用者との面会などを通して、なじみの人との交流が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の性格や行動を把握し、ストレスやトラブルを減らし、楽しく生活できるように目配り気配りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した方について、退所先での様子をご家族へお伺いしたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な関わりの中から、ご利用者様の希望や意向に気づき、記録や申し送りで対応を検討している。また、センター方式によるアセスメントを行い、担当者会議等で話し合いながら利用者本位の対応を検討している。	センター方式の「暮らしの情報」(生活シート)等を活用し、利用者の意向の把握に努めている。また、日常のかかわりの中で何気ない会話にも注意し、利用者の気持や望みを把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや入所時や日々の会話の中で、今までの生活歴等の話を伺い、出来るだけ希望に応じた対応をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「十人十色の幸せ探し」を考えながら、日常の行動や会話から、一人ひとりの個別ケアができるようにつとめている。また、ご利用者様の能力を決めつけずに隠れた能力を引き出すよう努力している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を用い、カンファレンスにて介護計画についての話し合いを定期的に行っている。また、毎日の申し送りや記録でケアの実践状況やモニタリングを行い、介護計画に生かしている	日常のケアの中から変化や意向をくみ取り、さらに家族の意向等を確認しながら利用者の実情に即した介護計画を作成している。計画の見直しは定期的を実施しているが、利用者の状態の変化に応じて随時計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の言葉やちょっとした変化や状況をありのまま記録することで情報の共有がしやすくなり、日々の気づきやケアプランの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までのかかりつけ医や美容院等にいけるよう援助し、気分転換としてドライブや買い物など柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や区長から、地域の活動などを伺ったりしているが、まだまだ勉強不足である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いままでのかかりつけ医を大事にし、受診時には日常のご様子やデータをご家族から医師に報告していただき、適切な医療が受けられるように援助している。また、必要に応じてGHでの受診対応も行い、適切な医療を受けられるようにしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援しており、受診には家族対応を基本としている。利用者の状況によっては職員が同行することもある。専門医もかかりつけ医の受診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良やバイタル異常等あった場合には、職場内の看護職に連絡し、その都度対応していただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には状態をご家族に伺ったり、病院に連絡をしたりして状態を把握するようにしている。普段の受診時に、現状を書いたものを医師にわたすようにしたりしてコミュニケーションをとるようにしている。また、緊急受診の際は、今までの経過を書いたものをご家族・医師に渡すようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化などはご家族へ報告し、必要に応じて受診をすすめている。今後予見される状況を報告し将来的な方向性も相談している。今後は緊急時の対応などを明確にするための話し合いも行う予定である。また、重度化に対する方針について、ご家族と話し合う機会も作り、共通認識ができるように努めている。	事業所の「重度化した場合の対応について」を定め、利用時に家族に説明し同意を得ている。利用者の状態に変化があった場合には家族と十分話し合い、全職員が情報の共有をして家族の希望にそった対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習やAEDの使用方法を全員が理解し、急変時のマニュアルを作成し、対応方法の確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所全体での避難訓練を行っている。年1回地域の消防団にも参加していただく訓練を行っている。備蓄品の確保や個人の非常持ち出し袋の準備などをすすめている。また、一人ずつ夜間想定火災訓練も行っている。	全事業所合同の「防災安全対策委員会」を設置しており、消防署立会いのもと合同の防災訓練を実施している。非常時には全職員がこの連携体制を活かした対応ができるよう情報の共有をしている。また、利用者個々の非常持ち出しリュック、非常食等も備えられている。	様々な災害に応じて職員が利用者を適切に誘導できるように日頃の訓練が重要と思われる。機会を見つけ避難誘導の訓練を重ねることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気を保ちつつ、言葉を選びながら、プライドを傷つけないような言葉かけをしている	利用者の人格を尊重し、「言葉の拘束」等には十分に注意して対応している。トイレや入浴時の誘導の声掛け等には特に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の訴えはその都度聞くことはもちろん、表情や行動などでも訴えをくみ取れるように相手の気持ちを考えながら対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や起床時間等、その日の気分や体調により柔軟な対応ができるように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の希望に沿って、化粧や洋服は選んでもらうようにし、購入希望時には一緒に買いに行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	買い物や調理や後片付けなどのご利用者様にお手伝い頂き、食べたいものをメニューに取り入れたり、食事でも話が弾むように気を配り、楽しく食事ができるようにしている	献立は利用者の要望を取り入れ職員が交代で立て、関連事業所の管理栄養士に確認してもらっている。食材は利用者と共に買い出しに行き、調理や片付けも一緒に行なっている。職員は利用者と同じ食卓を囲み食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立には旬のものを取り入れ、一人ひとりの好みや状態により食事形態も工夫し提供している。また、管理栄養士にチェックをしていただきバランスのとれた食事を提供できるようにしている。水分量も確保できるように、食事の合間にもコーヒーやココアなど好みのものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ・介助を行い、就寝時には義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い、排泄パターンを把握し、失敗なくトイレ誘導行えるように援助している。排泄の介助の際は、羞恥心に配慮して対応をしている。	退院時にはオムツ等の利用となった利用者も全職員が「チェックシート」活用による誘導で改善されている。現在おむつの利用者はいない。夜間はリハビリパンツ等を使用しているが、排泄の自立者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを行い、便秘傾向の方には腹部マッサージをしたり、ルイボスティやセンナ茶を飲んでいただいたり、出来るだけ薬に頼らない自然排便を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆったりと入浴していただけるような雰囲気作りをする。ご利用者様の気分にあわせた対応ができるように心がけている。入浴を拒む方への言葉かけ、タイミングを工夫している。	毎日入浴できる体制となっている。拒否者に対しても週3回を目標に支援している。浴場は広く床暖があり、円形のラジウム浴槽となっており、周りからの介助が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の体操などで生活のリズムができるようにすることとあわせて、一人ひとりの生活リズムを考えながら、ゆっくりを話を伺ったり、温かい飲み物を提供したり、部屋の室温・湿度に配慮したりして、安眠できるよう援助している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理表で、一人ひとりの薬について、把握できるようにしている。薬の変更があった場合には、申し送り全員が把握できるようにし、服薬については役割分担を明確にし、間違いにならないように、2重3重のチェック態勢で支援している。服薬の勉強会を行い、薬の目的や副作用などの理解を深める努力をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や希望に合わせて役割を持っていただき、頼りになる存在になれる場面を作っている。音楽療法やレク、散歩や買い物等、その方の楽しめるもの提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物には順番に同行していただき、日常的に外出できる機会を設けている。GHの行事として、遠足のドライブなども行っているが、状態により全員での外出が利用者本位で無くなってきていることもある為、グループ分けを行うなどして、楽しく外出できるように検討している。	地域の行事への参加も多く実施している。事業所は工業団地内の一角にあり、好天時には広い敷地内の散歩を日課としている。また、事業所では外出の年間計画を立て、花見・イチゴ狩り・紅葉狩り等季節ごとに外出支援を実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は、職員で管理をさせていただいているが、買い物や外出時には自分で支払いをさせていただいたりしている。自己管理困難だが、持っていないと不安がある場合はその都度対応し、安心してもらえるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に電話線はない為、希望時に事務所内からかけて頂くようにしている。 年賀状や暑中見舞いなどを出したり、ご家族から貰ったりすることについても今後検討している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や台所はなるべく家庭的な雰囲気でのコミュニケーションのとれる場所となるようにし、温度湿度にも配慮している。 また玄関・浴室・トイレ等は清潔に努め、快適に過ごしていただけるように配慮している	共用空間は広く畳コーナーもあり、床暖が設置されており、非常口は車イスにも対応している。利用者の習字・折り紙等の作品が展示され、また、利用者が活けたお花も飾られ和みのエリアとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方とお話できるようにソファや炬燵を準備し、食事時の座席にも配慮するようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	ご家族の写真やなじみの物や愛用品を持参していただき、その人らしいお部屋になるように支援している。 お部屋にはレクで作成した作品や誕生日にお渡しした色紙なども飾ってその人らしく過ごせる部屋づくりを支援している。 日々の清掃により清潔保持に努め、温度湿度にも配慮して心地よく過ごしていただけるようにしている	部屋には整理筆筒・テレビ・空調・床暖が完備されている。特に、各部屋に設置されているトイレは利用者のプライバシー保護に配慮されている。利用者の希望によりなじみの家具も持ち込み自由であり、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを全体的に設置しており、自立を促している。ベット柵はADLにに応じ大きさや形を変えて対応している。 また、オープンキッチンによる見守り可能な作業台がご利用者様のできることを活かしている。		